

帯状疱疹は早期発見・早期治療が大切

滝宮総合病院 保健師 太田 奈都紀さん

帯状疱疹とは

帯状疱疹は、神経に潜む小児期に感染した水ぼうそうが活性化することで発症する皮膚疾患です。

症状には個人差がありますが、はじめにピリピリ、チフチフ、ズキズキといった神経痛が出てきます。その後、体の左右どちらか一方に、赤く小さな水ぶくれを伴う発疹が帯状に現れます。発疹は、肋間神経のある胸から脇腹、背中にかけて多くみられ、顔など感覚を脳に伝える三叉神経や顔面神経に沿って発症することもあります。また、合併症として頭部で発生すると顔面神経麻痺や、耳鳴り、めまい、難聴、角膜炎や結膜炎、ぶどう膜炎(目)などを引き起こすことがあります。

原因

帯状疱疹と水ぼうそうは同じウイルスによって起こります。多くの場合、水ぼうそうは子どもの頃に発症し1週間程度で治ります。しかし、体内の水ぼうそうウイルスそのものはなくなり、体内に数十年と潜み、加齢やストレスで免疫の動きが低下するとウイルスが神経に沿って体の表面に現れてきます。

治療法

帯状疱疹は、発疹が現れたらなるべく早く(3日以内)治療を開始することが望ましいです。早く治療を始めれば、合併症を防ぐことができます。治療の中心は抗ウイルス薬です。また疼痛に対して鎮痛薬や炎症を和らげる軟膏が処方されることもあります。

予防法

予防するためには、食事のバランスに気をつける、睡眠をきちんととるなど、日頃から体調管理に心がけることが大切です。

